

第108回 県内企業景況調査

当研究所では、県内の景気動向を探るため四半期毎に県内企業景況調査を行っています。このほど、2017年5月に実施した調査結果を下記のとおりとりまとめました。

ご多用のなかご回答頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

【 調 査 要 領 】

1. 調 査 目 的：県内企業の業況と経営動向の把握および県内景況判断資料の作成
2. 調 査 対 象：県内主要企業470社（回答企業数378社、回答率80.4%）
3. 調 査 方 法：郵送によるアンケート方式とヒアリング方式を併用
4. 調 査 期 間：2017年4月28日～5月31日
5. 調査対象期間：2017年1～3月期 **実 績**（前年同期比）
 2017年4～6月期 **実績見込み**（前年同期比）
 2017年7～9月期 **見 通 し**（前年同期比）
6. 調 査 事 項
 - (1) 業況判断 (2) 売上高 (3) 受注残高 (4) 在庫水準
 - (5) 操業度・稼働率 (6) 雇用人員 (7) 販売価格 (8) 仕入価格
 - (9) 採算（経常利益） (10) 資金繰り (11) 経営上の問題点
7. 回答企業属性

(1) 業種別回答企業数

業 種	項 目	回答企業数	
		回答企業数	構成比
製 造 業	輸 送 機 械	11	2.9
	一 般 機 械	12	3.2
	電 気 機 械	11	2.9
	食 料 品	28	7.4
	土 石・コンクリート	3	0.8
	そ の 他	31	8.2
非 製 造 業	運 輸	47	12.4
	水 産	4	1.1
	建 設	45	11.9
	卸 売	74	19.6
	小 売	44	11.6
	サ ー ビ ス	52	13.8
	そ の 他	16	4.2
	全 業	378	100.0

※構成比は四捨五入の関係で合計と必ずしも一致しない。

(2) 売上高別回答企業数

業 種	製 造	運 輸	水 産	建 設	卸 売	小 売	サ ー ビ ス	そ の 他	合 計	
									回答企業数	構成比
売上高	5億円未満	19	15	0	5	7	4	12	3	65
	5億～10億円未満	17	10	0	6	14	9	10	4	70
	10億～30億円未満	38	11	4	22	28	9	16	5	133
	30億～50億円未満	6	4	0	5	5	4	9	1	34
	50億～100億円未満	8	5	0	3	11	8	2	2	39
100億円以上	8	2	0	4	9	10	3	1	37	
合 計	96	47	4	45	74	44	52	16	378	

BSIについて

BSIはビジネス・サーベイ・インデックス (Business Survey Index) の略で、回答企業の「好転・増加・上昇」とする企業割合から「悪化・減少・下落」とする企業割合を差し引いた指標のことである。例えば回答企業のうち30%で業況が好転し、10%の企業が悪化した場合、BSIの値は30-10=20となる。BSIのプラスは好転、マイナスは悪化とみることができる。

【要約】

横ばい続く景況感

- 県内企業の業況判断BSIをみると、2017年1～3月期実績は△5と16年10～12月期（△2）からやや悪化したものの前回調査時の実績見込み（△11）を上回った。足もと4～6月期の実績見込みは△5と前回見通し（△12）を上回ったものの前期実績並み、先行き7～9月期も△5と横ばい推移の見通し。
- このように、県内企業の景況感は概ね横ばい圏内で推移している。背景として、人手不足や人件費・調達仕入れコスト上昇などが続くものの、主要製造業が高操業を維持、消費面も春先の天候不順から季節商材が伸び悩むも、熊本地震の影響が一巡し、国際クルーズ船客増加もあって比較的底堅く、公共投資や設備投資も堅調に推移していることが挙げられる。
- 製造業の業況判断BSIは、16年10～12月期+3から、17年1～3月期実績は△6と前回見込み（△4）を下回り、足もと4～6月期は△6（前回見通し△5）と悪化も、先行き7～9月期見通しは△1と持ち直しへ。
- 非製造業の業況判断BSIは、1～3月期実績は△4と前回見込み（△14）を大幅に上回ったが、足もと4～6月期実績見込みは△4と横ばい、先行き7～9月期については△6とやや悪化の見通し。
- 経営上の問題点として最も多く挙げられたのは、引き続き「人材不足」、以下「売上げ・受注の不振」、「設備の老朽化」が続く。

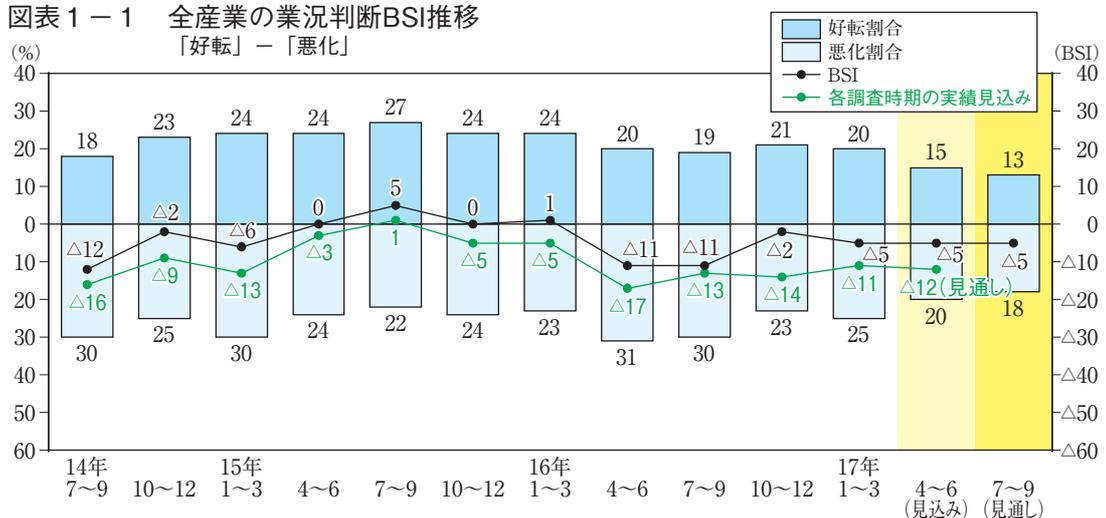
1. 業況判断【図表1-1～1-4】

全産業の業況判断BSIをみると、2017年1～3月期実績は△5と、16年10～12月期からやや悪化したものの、前回調査時の見込み（△11）を上回った。足もと4～6月期見込みは、熊本地震の影響の一巡から前回調査の見通し（△12）を上回ったが、円安に伴う輸

入物価の上昇や原油高によるコストの増加などから△5、先行き7～9月期も△5と横ばいの見通し。

業況判断の内訳をみると、先行きにかけて「好転」企業が減少する見通し。16年10～12月期21%、17年1～3月期実績20%とほぼ横ばいも、足もと15%、先行き13%と低下の見

図表1-1 全産業の業況判断BSI推移
「好転」-「悪化」



通し。一方、「悪化」企業の割合は、16年10～12月期23%、17年1～3月期実績25%、足もと20%、先行き18%と小幅減少の見通し。

このように、県内企業の景況感は概ね横ばい圏内で推移している。背景として、人手不足や人件費・調達仕入れコスト上昇などが続くものの、主要製造業が高操業を維持、消費面も春先の天候不順から衣料品など季節商材が伸び悩んだものの、熊本地震の影響が一巡し、国際クルーズ船客増加もあって底堅く、公共投資や設備投資も堅調に推移していることが挙げられる。

◆規模別・地域別

規模別にBSIをみると、常用雇用者数（パートを除く）が「10人～19人」の企業では、足もと・先行きともプラス圏で推移。また、従業員数が「20～29人」と「50～299人」ではマイナス圏ながら先行き持ち直し。

一方、従業員数が「9人以下」は大幅なマイナスで推移。

地域別にBSIをみると、島原地区と離島地区では足もと回復、先行きについてもプラス圏で推移。熊本地震の影響一巡から、島原地

区はプラス圏へ。離島地区も足もと・先行きとも回復の見通し。

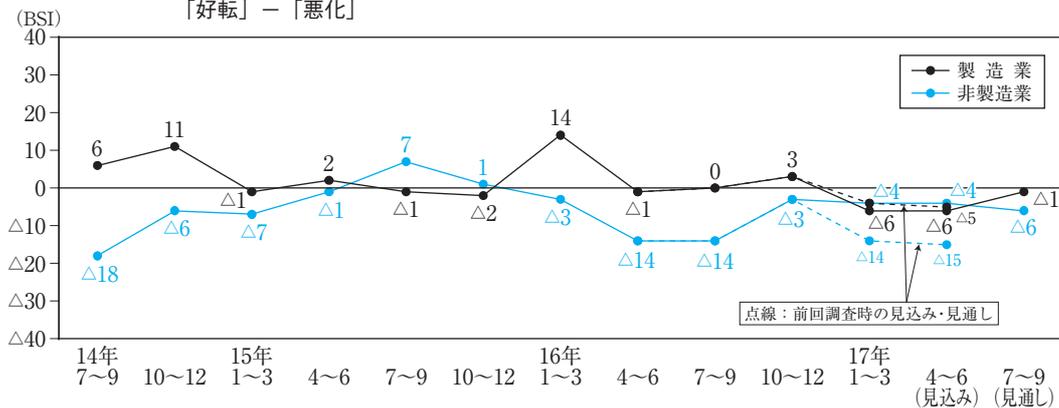
一方、長崎地区はマイナス圏ながら、先行きやや持ち直しの見通し。県央・県北地区は先行きやや悪化の見通し。

規模別・地域別業況BSI

規模	社数	前期実績	今回実績見込み	見通し	今回実績見込み比
9人以下	17社	△23	△23	△24	→
10～19人	29社	△7	7	4	→
20～29人	42社	△21	△19	△14	→
30～49人	74社	△1	6	0	→
50～299人	184社	0	△7	△3	→
300人以上	32社	△6	△3	△9	→

地域	社数	前期実績	今回実績見込み	見通し	今回実績見込み比
長崎	193社	△8	△12	△9	→
県央（諫早・大村）	55社	3	△2	△5	→
島原	23社	△5	13	9	→
県北（佐世保）	87社	1	0	△3	→
離島	20社	△20	15	20	→

図表1-2 製造業・非製造業別 業況判断BSI
「好転」 - 「悪化」



図表1-3 業種別 業況判断BSI推移 (直近2年)

(月期、BSI)

業 種	過去の調査の実績						今回調査		
	2015年		2016年				実績	見込み	見通し
							2017年		
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
全 産 業	5	0	1	△ 11	△ 11	△ 2	△ 5	△ 5	△ 5
製 造 業	△ 1	△ 2	14	△ 1	0	3	△ 6	△ 6	△ 1
輸 送 機 械	9	18	33	△ 9	9	25	△ 9	△ 9	△ 9
一 般 機 械	18	△ 36	△ 9	34	25	△ 46	△ 33	△ 58	△ 67
電 気 機 械	10	△ 10	27	△ 10	34	18	27	0	18
食 料 品	△ 4	23	20	△ 26	△ 15	4	△ 4	21	22
そ の 他	△ 14	△ 24	8	3	△ 7	3	△ 7	△ 14	0
非 製 造 業	7	1	△ 3	△ 14	△ 14	△ 3	△ 4	△ 4	△ 6
運 輸	16	0	△ 6	△ 24	△ 21	△ 13	△ 29	0	△ 4
水 産	0	60	△ 80	△ 25	△ 80	△ 20	△ 50	△ 50	△ 50
建 設	△ 25	△ 19	△ 14	△ 6	△ 2	△ 4	11	△ 11	△ 13
卸 売	19	21	14	△ 4	△ 10	△ 4	△ 9	△ 11	△ 11
小 売	2	△ 18	△ 4	△ 4	△ 10	2	△ 2	△ 6	△ 2
サ ー ビ ス	9	△ 2	△ 7	△ 34	△ 25	△ 2	16	5	2
そ の 他	38	25	△ 6	△ 18	△ 13	25	△ 12	14	7

図表1-4 業種別 (細分類) 業況判断BSI及び企業割合の推移

(%, BSI)

業 種	2016年10~12月期				2017年1~3月期				2017年4~6月期				2017年7~9月期			
	(実績：前年同期比)				(実績：前年同期比)				(実績見込み：前年同期比)				(見通し：前年同期比)			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
全 産 業	21	56	23	△ 2	20	55	25	△ 5	15	65	20	△ 5	13	69	18	△ 5
製 造 業	26	51	23	3	21	52	27	△ 6	16	62	22	△ 6	17	65	18	△ 1
輸送機械器具製造業	25	75	0	25	9	73	18	△ 9	9	73	18	△ 9	9	73	18	△ 9
一般機械器具製造業	9	36	55	△ 46	17	33	50	△ 33	0	42	58	△ 58	0	33	67	△ 67
電気機械器具製造業	36	46	18	18	27	73	0	27	18	64	18	0	27	64	9	18
食料品製造業	24	56	20	4	25	46	29	△ 4	32	57	11	21	33	56	11	22
非 製 造 業	20	57	23	△ 3	20	56	24	△ 4	15	66	19	△ 4	12	70	18	△ 6
運 輸 業	16	55	29	△ 13	9	53	38	△ 29	21	58	21	0	17	62	21	△ 4
道路旅客運送業	7	53	40	△ 33	7	50	43	△ 36	29	42	29	0	21	50	29	△ 8
道路貨物運送業	13	68	19	△ 6	6	50	44	△ 38	6	69	25	△ 19	6	75	19	△ 13
水 運 業	25	50	25	0	0	71	29	△ 29	0	86	14	△ 14	14	57	29	△ 15
水 産 業	0	80	20	△ 20	0	50	50	△ 50	0	50	50	△ 50	0	50	50	△ 50
建 設 業	11	74	15	△ 4	18	75	7	11	11	67	22	△ 11	9	69	22	△ 13
卸 売 業	24	48	28	△ 4	19	53	28	△ 9	12	65	23	△ 11	7	75	18	△ 11
機械器具卸売業	8	61	31	△ 23	15	70	15	0	15	77	8	7	0	92	8	△ 8
建築材料卸売業	30	60	10	20	40	40	20	20	10	60	30	△ 20	10	60	30	△ 20
小 売 業	28	46	26	2	25	48	27	△ 2	14	66	20	△ 6	18	62	20	△ 2
各種商品小売業	45	37	18	27	40	50	10	30	30	60	10	20	30	60	10	20
機械器具小売業	33	60	7	26	42	50	8	34	8	75	17	△ 9	17	75	8	△ 9
サ ー ビ ス 業	16	66	18	△ 2	31	54	15	16	13	79	8	5	10	82	8	2
ホテル・旅館	36	55	9	27	50	30	20	30	40	50	10	30	20	80	0	20

図表1-5 調査項目別BSI

売 上	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	△ 9	△ 6	↑	△ 12	△ 8	↑	△ 6	↑
製造業	△ 7	△ 7	→	△ 6	△ 10	↓	△ 3	↑
非製造業	△ 10	△ 7	↑	△ 14	△ 6	↑	△ 8	↓

受注残高	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	△ 10	△ 2	↑	△ 8	△ 8	→	△ 7	↑
製造業	△ 10	△ 4	↑	△ 8	△ 9	↓	△ 8	↑
非製造業	△ 9	4	↑	△ 9	△ 5	↑	△ 6	↓

在庫	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	5	3	↓	3	2	↓	0	↓
製造業	△ 2	△ 5	↓	0	△ 7	↓	△ 6	↑
非製造業	12	9	↓	5	8	↑	5	↓

操業度・稼働率	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	△ 7	△ 6	↑	△ 13	△ 1	↑	△ 6	↓
製造業	△ 4	△ 7	↓	△ 7	△ 3	↑	△ 3	→
非製造業	△ 9	△ 4	↑	△ 17	0	↑	△ 8	↓

雇用人員	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	△ 30	△ 33	↓	△ 32	△ 27	↑	△ 27	→
製造業	△ 23	△ 26	↓	△ 24	△ 14	↑	△ 21	↓
非製造業	△ 33	△ 36	↓	△ 35	△ 32	↑	△ 29	↑

販売価格	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	0	△ 1	↓	△ 1	0	↑	△ 2	↓
製造業	△ 4	△ 1	↑	2	△ 2	↓	△ 1	↑
非製造業	2	△ 1	↓	△ 2	0	↑	△ 2	↓

仕入価格	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	12	15	↑	17	19	↑	18	↓
製造業	13	21	↑	24	29	↑	29	→
非製造業	13	12	↓	15	16	↑	15	↓

採算	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	△ 9	△ 8	↑	△ 15	△ 14	↑	△ 13	↑
製造業	△ 3	△ 3	→	△ 4	△ 12	↓	△ 13	↓
非製造業	△ 11	△ 10	↑	△ 19	△ 15	↑	△ 14	↑

資金繰り	1～3月期		前回比	4～6月期		前回比	7～9月期	
	前回実績見込み	今回実績		前回見通し	今回実績見込み		見通し	今回実績見込み比
全産業	△ 2	△ 1	↑	△ 5	△ 1	↑	△ 4	↓
製造業	0	2	↑	0	1	↑	△ 2	↓
非製造業	△ 3	△ 2	↑	△ 6	△ 2	↑	△ 5	↓

(1) 製造業 (図表1-2、1-3、1-4)

製造業の業況判断BSIは、2016年10~12月期実績+3から、17年1~3月期実績△6(前回見込み△4)とマイナスに転じ、足もと4~6月期は△6(前回見通し△5)と横ばい、先行き7~9月期見通しについては△1と持ち直しへ。

◆業種別

輸送機械 (16年10~12月期実績 25→17年1~3月期実績 △9→4~6月期実績見込み △9→7~9月期見通し △9、以下同順にBSIのみ表記) のBSIは、低船価や原油価格の上昇などから、17年1~3月期実績△9と前期(25)から大幅に低下したあと、足もと4~6月期・先行き7~9月期とも△9と横ばいの見通し。

一般機械 (△46→△33→△58→△67) では、BSIは17年1~3月期実績が△33と前期(△46)から上昇も、受注環境の悪化や外注費の上昇による収益の低下などから足もと△58、先行き△67と大幅にマイナス推移の見通し。

電気機械 (18→27→0→18) では、BSIは17年1~3月期実績27も、短納期・低価格化や人材不足などから足もと4~6月期は0へと大幅に低下、7~9月期は18と上昇する見通し。

食料品 (4→△4→21→22) では、BSIは足もと4~6月期は21と熊本地震の影響一巡により大幅に回復し、先行き7~9月期も22と上昇の見通し。

(2) 非製造業 (図表1-2、1-3、1-4)

非製造業の業況判断BSIは、17年1~3月期実績が△4と前回の見込み(△14)を大きく上回り、足もと4~6月期見込みも△4と前回の見通し△15から大きく持ち直した。もっとも、先行き7~9月期は△6と弱含み。

◆業種別

運輸 (△13→△29→0→△4) では、足もと4~6月期は0と大幅に持ち直すも、先行きについてはやや悪化し△4の見通し。

このうち、**道路旅客運送** (△33→△36→0→△8) では、BSIは熊本地震の影響一巡により1~3月期実績△36から足もと0まで持ち直すも、先行き△8とやや低下。**道路貨物運送** (△6→△38→△19→△13) はドライバー不足からマイナス圏ながら、足もと△19、先行き△13と持ち直す見通し。

水産 (△20→△50→△50→△50) は、アジ・サバ類などの漁獲の減少から実績・足もと・先行き△50と横ばいの見通し。

建設 (△4→11→△11→△13) は、1~3月期にプラスに転ずるも、厳しい受注環境や人材獲得難から足もと△11、先行き△13と悪化の見通し。

卸売 (△4→△9→△11→△11) は、1~3月期実績△9から、足もと・先行き△11と、悪化の見通し。消費関連では、天候不順の影響で生鮮食品価格が高止まりし、消費者の節約志向が依然として強く、足もと・先行き悪化の見通し。

うち**農畜産物卸売** (37→0→0→10) は、天候不順による農作物の高値が続き、16年10~

12月期実績37から17年1～3月実績・足もと0と大幅に低下。先行きは10と回復の見通し。
建築材料卸売 (20→20→△20→△20) は、実績20も、足もと・先行き△20と悪化の見通し。

小売 (2→△2→△6→△2) では、春先に気温が上がりきれず衣料品など季節商材が伸び悩んだことから、足もとは△6と悪化も、先行きは△2と持ち直す見通し。

サービス (△2→16→5→2) のBSIは、10～12月期実績は△2、熊本地震の影響が和らぎ、17年1～3月期実績16、足もと5・先行き2とプラス圏推移。このうち**ホテル・旅館** (27→30→30→20) は、10～12月期実績27から1～3月期実績は30に上昇。足もと4～6月期も30、先行き7～9月期は20と低下もプラス圏で推移の見通し。

2. 売上高、受注残高【図表1-5】

売上高BSI (△9→△6→△8→△6) は、17年1～3月期△6、足もと△8と悪化も、先行き△6と持ち直しの見通し。

製造業 (△7→△7→△10→△3) は足もと△10と悪化も、先行き△3に持ち直しの見通し。

非製造業 (△10→△7→△6→△8) は1～3月期実績△7から、足もと△6へやや持ち直すも、先行きは△8と悪化の見通し。

受注残高BSIについては、**製造業** (△10→△4→△9→△8) は17年1～3月期実績△4から足もと△9と悪化も、先行きは△8と幾分持ち直しの見通し。

3. 在庫、操業度・稼働率【図表1-5】

全産業の在庫水準BSI (5→3→2→0) は、プラス(「過大」>「不足」)ながら足もと・先行きにかけて低下。

製造業 (△2→△5→△7→△6) では、足もと△7と在庫は不足。「適正」との回答割合は10～12月期90%以降、85%→87%→88%と9割近くを占める。

非製造業 (12→9→8→5) では、**卸売** (9→11→8→4)、**小売** (14→7→8→5) とともにBSIはプラス(過大超)の幅が先行きにかけて縮小の見通し。

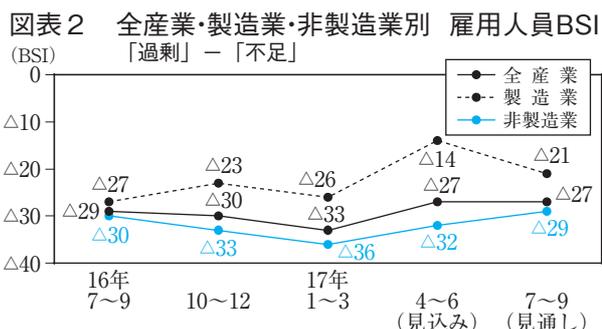
操業度・稼働率のBSIは、**製造業** (△4→△7→△3→△3) では、実績△7から、足もと・先行き△3と、やや持ち直しの見通し。

非製造業 (△9→△4→0→△8) は、実績△4から足もと0と持ち直しも、先行きは△8と悪化の見通し。

4. 雇用人員【図表1-5】

全産業の雇用人員BSI (△30→△33→△27→△27) は、大幅マイナス(人員不足)となっており、足もと・先行きは△27と前期△33から幾分和らぐものの不足感は続く見通し。

製造業 (△23→△26→△14→△21) では、



足もと不足感は弱まるも、先行きは再び不足感が強まる見通し。このうち、**電気機械**（ $\Delta 27 \rightarrow \Delta 36 \rightarrow \Delta 9 \rightarrow \Delta 9$ ）では、足もと・先行きは不足感が弱まる見通し。

非製造業（ $\Delta 33 \rightarrow \Delta 36 \rightarrow \Delta 32 \rightarrow \Delta 29$ ）でも不足感が続く見通し。

人員が「適正」との割合は、運輸では4割台、サービスでは5割台にとどまり人手不足感が続く。

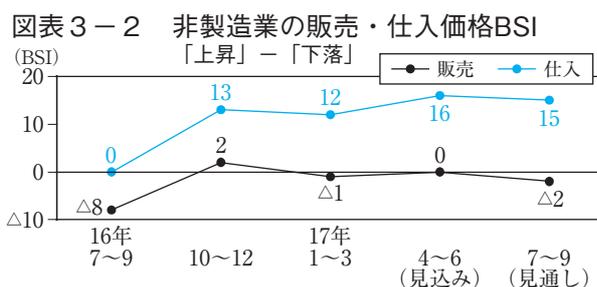
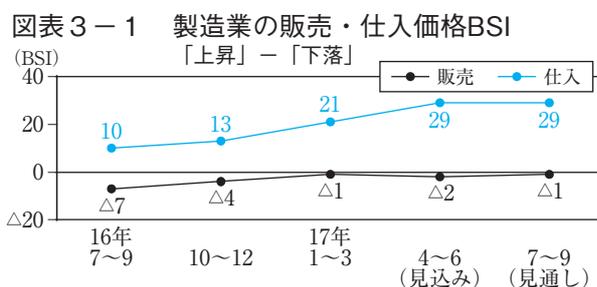
※本調査における「雇用」とは、常用雇用者（パートを除く）。派遣社員は除く。

5. 販売価格・仕入価格【図表1-5】

全産業の販売価格のBSI（ $0 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow 0 \rightarrow \Delta 2$ ）は、17年4～6月期0から7～9月期 $\Delta 2$ とマイナス（「低下」超）へ転じる見通し。

製造業（ $\Delta 4 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow \Delta 2 \rightarrow \Delta 1$ ）では、17年1～3月期 $\Delta 1$ から4～6月期 $\Delta 2$ 、7～9月期も $\Delta 1$ とマイナス（「低下」超）の見通し。

非製造業（ $2 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow 0 \rightarrow \Delta 2$ ）では、17年1～3月期実績が $\Delta 1$ と16年10～12月期実績2



からマイナスに転じ、4～6月期0、7～9月期 $\Delta 2$ とマイナス基調で推移見通し。

一方、**仕入価格のBSI**（ $12 \rightarrow 15 \rightarrow 19 \rightarrow 18$ ）はプラス圏（「上昇」超）にあり、16年10～12月期の実績12から、17年1～3月実績15、足もと19と上昇圧力が強まり、先行き18とやや低下も、高止まりの見通し。

製造業（ $13 \rightarrow 21 \rightarrow 29 \rightarrow 29$ ）では上昇圧力が強まる。うち、**食料品**（ $4 \rightarrow 18 \rightarrow 18 \rightarrow 26$ ）は先行き上昇の見通し。

非製造業（ $13 \rightarrow 12 \rightarrow 16 \rightarrow 15$ ）は17年1～3月期実績でやや低下も、足もと上昇し、先行きもほぼ横ばいの見通し。

製造・非製造業とも仕入価格が上昇し高止まりしている一方、販売価格は一進一退の動きが続いている。このことから仕入価格やコスト上昇分を、販売価格に転嫁できていないため、収益を圧迫していることがうかがわれる。

6. 採算、資金繰り【図表1-5】

全産業の採算（経常利益）BSI（ $\Delta 9 \rightarrow \Delta 8 \rightarrow \Delta 14 \rightarrow \Delta 13$ ）は、17年1～3月期実績 $\Delta 8$ から、円安に伴う輸入物価上昇分の販売価格への転嫁が進んでいないことや、人材獲得難による人件費の増加などから、足もと4～6月期 $\Delta 14$ とマイナス幅が拡大。先行き7～9月期も $\Delta 13$ とマイナスが続く。採算が「好転」する企業の割合は19%→19%→12%→10%と先行き減少し、厳しい経営環境を示している。

全産業の資金繰りBSI（ $\Delta 2 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow \Delta 4$ ）は、実績・足もと $\Delta 1$ から先行き $\Delta 4$ とやや悪化の見通し。

7. 経営上の問題点【図表2】

経営上の問題点（3つ以内の複数回答、全産業計）のトップは引き続き「人材不足」で前回（55%）より低下したものの53%を占めた。これに次ぐのは「売上げ・受注の不振」（40%）、「設備の老朽化」（30%）。

また、「賃金の上昇」が、サービス業（前回24%→今回28%、小売業（20%→26%）などで上昇しており、人員確保のための賃金引上げもみられる。

（泉 猛）

図表4 業種別経営上の問題点
（3つ以内の複数回答）

業 種	第1位	第2位	第3位
全産業計	◆人材不足 (55%)→53%	◆売上げ・受注の不振 (41%)→40%	◆設備の老朽化 (30%)→30%
製 造	◇人材不足 (52%)→45%	◇売上げ・受注の不振 (41%)→43%	◇設備の老朽化 (30%)→30%
運 輸	◇人材不足 (57%)→64%	◇売上げ・受注の不振 (49%)→38%	◇設備の老朽化 (37%)→34%
水 産	◇設備の老朽化 (80%)→75%	◇省力化、合理化の遅れ (60%)→75%	◇人材不足 (60%)→25%
建 設	◇人材不足 (60%)→57%	◇売上げ・受注の不振 (42%)→45%	◇労働時間の短縮 (20%)→21%
卸 売	◇人材不足 (52%)→52%	◇売上げ・受注の不振 (51%)→42%	◇設備の老朽化 (23%)→25%
小 売	◇人材不足 (58%)→57%	◇売上げ・受注の不振 (38%)→43%	◇設備の老朽化 (36%)→31%
サービス	◇人材不足 (57%)→60%	◇設備の老朽化 (48%)→44%	◇労働時間の短縮 (41%)→42%

(注) 1. 各業種毎の回答先数に対する割合
2. ()内の数字は前回調査時（2017年2月）

■景況感の判断理由など（抜粋）

区分	状況の説明など	
製造業		
輸送機械	造船	・引合いが少ない。しばらく低船価が続く。
	〃	・建造、修繕部門とも良好。操業度、稼働率も高水準を維持し、収益も良好。
	〃	・現状で行くと、2年後には生産状況が低下する見込み。受注状況に変化はないが、引合い商談が少しづつ始まっているため、受注獲得に努めたい。
	〃	・現在水産庁において「儲かる漁業」の詳細が検討されている。これが決定され、実施されると、まき網漁船の建造が引き続き期待される。内航海運はオリンピック需要の本格化を期待している。
一般機械	はん用機械器具	・為替の円高リスクや株価低迷により景況感は停滞ぎみとなっている。受注環境については厳しい状況が続くものと思われ、受注高も減少傾向となっている。それに伴い操業度も悪化しており、昨年と比較し減収減益の見通し。
	〃	・受注が低迷しており、営業活動をさらに活発化する必要がある。受注目標を達成すべく活動していく。
	〃	・市況では、国内外の設備投資意欲の停滞感もあり受注環境については、国内外ともに厳しい状況が続いている。
	〃	・発電所向けの仕事量が6月以降減少。船舶関連も引き続き低調。
電気機械	電機機械器具	・船舶の受注は環境が悪く、今後は採算が悪くなってくる。
	〃	・仕事の更なる効率化、改善が必要。イレギュラーな仕事への対応ができる人材が少ない。
	〃	・仕入価格の上昇、短納期・低価格化、人材不足。国内需要不振、海外受注積極取組み。
	〃	・人材不足と設備の老朽化により、外注に頼っている。新卒者の雇用を考えている。
食料品	食料品	・人員不足を派遣、外国人労働者に依存しているため、労務費の高騰、教育時間が発生。設備更新の時期であるため、機械化による少人化を進める。
	〃	・売上の大幅な増加はなかなか難しいと思われるため、経費削減に努めている。
	〃	・観光に関しては復調すると考えている。会社の稼働は昨年より上がって行く中で、社員の休暇の増加を図っていくために仕事の効率を向上させていかなければならない。
	〃	・原料高騰により収益を圧迫している。販売価格の値上げを交渉中。
その他製造業	金属製品製造	・原材料は依然として高い水準であり、採算ベースを大きく上回っており、主要顧客へ値上げ交渉中。原材料は先行き不透明であり、受注増の現状見込みが立っておらず、低操業が続く。
	鉄鋼業	・造船事業において受注面での不安要素はあるが、全体的な落ち込みは回避できる見通し。
	バルブ・紙・紙加工品製造業	・造船業界の売り上げがやや減少傾向にある中、精密工作機メーカーのボールネジ等の需要がやや上昇傾向にある。
	陶磁器製造	・売上、受注の不振に加え、物流費、賃金の上昇等で経費増の傾向。
非製造業		
運輸	鉄道	・昨年のような自然災害がなければ、地震の影響が回復し、順調に推移する見込み。
	タクシー	・タクシー全体は季節要因や景気マインドに左右されがちであり、かつ、今後6カ月以内に法人・個人ともに約15%の減車に取り組み予定であることから1車あたりの収入が増加するものの、全体での落ち込みが激しいものと思われる。
	道路旅客輸送	・稼働率の低下（人員不足）で売上が減少している状況。
	道路貨物輸送	・人手不足により稼働率が悪化している。人材を確保し、稼働率を上げる。
建設業	水運	・人材確保が困難になると予想されたので1年前より積極的雇用確保を行った。そのため、現時点では固定費の増大が一時的にある。
	総合工事	・ガードマンやダンプトラックの不足から工事が中断する。ガードマンも公共の仕事より民間の仕事を優先している。
	〃	・とりわけ大卒の採用が厳しい。他県の大学も含めて、学校側との良好な関係を継続していく。
	職別工事	・技術工の高年齢化、退職等で人材不足の状況。
卸売業	設備工事	・新造船受注低迷を受け、国内造船業は手持ち工事量の減少が加速しているため、客先のニーズに応えるための技術開発と体制の確立を図り、シェア拡大を目指している。
	農畜産物	・受注のバラツキ、労働生産性が低い。民需は多いが安すぎる。公共工事が東京と被災地に偏っている。長崎市以外は仕事量が厳しい。
	機械器具	・昨年度の冬頃まで続いていた高値傾向が全体的にみられなくなってきた。昨年度比で入荷量は持ち直すが単価は低下と予想。
	建築材料	・公共、民間とも物件の発注が少ない。人材不足等もあり、着工遅れ等の問題もある。景況感は実態として良いようには感じられない。今後の見通しも好転するような材料に乏しいように思える。
小売業	水産物卸売	・戸建て住宅の着工数に大きな変化はないものの、大手ハウスメーカーのシェアが大きくなっているため、アパートやマンションなどの集合住宅やサ高住などの箱物へ軸足を移している。しかし競争が激しく利益率の低下が心配される。
	食料・飲料	・長崎で水揚げの多い旋網のアジ、サバ類の水揚げ減少が今後も続けば、鮮魚流通のみならず加工へも影響がでることが懸念される。
	石油	・熊本地震から1年経過したが、消費の伸びは見られない。売上にも影響している。
	〃	・ガソリン小売の市況は、採算もしくは量販重視で各社間の手法の違いが大きく表れてきている。業界内の人材不足は深刻な問題。
サービス業	〃	・都市ガスの小売全面自由化となり、前年の電力の小売自由化をもって、異分野サービスを組み合わせたガス販売、セット販売等、エネルギー市場の自由化が加速し市場の垣根が撤廃される。業界では消費者の選択に応えるための取組みを推進していく。
	飲食料品	・人件費の上昇、特に社会保険料の増加に伴い、利益が減少して推移。売上・粗利の増強計画で営業力、販売強化していく。
	〃	・とにかく従業員不足に困っており、あわせて仕方なく人件費単価を引き上げねばならず苦慮している。売上不振の一因ともなっている。全く改善の見通しが立たない。
	その他の小売	・観光バスツアー客数の増加はあるが、売上高増加に結びついていない。
専門サービス業	旅館・その他宿泊所	・昨年の熊本地震の影響は徐々に回復しているが、労働力は不足、労働時間の短縮も進まず。
	〃	・熊本地震後、順調に回復し、業績も好転したが、人材不足、求人に対する広告費の出費が増えてきた。
	運輸に付帯するサービス	・海外情勢不和の長期化と燃油コストの復活（海外）により依然として厳しい状況。
	情報サービス・調査・広告業	・前年下期には、ねりんピック特需により、増収増益の結果となったが、今年度はその恩恵が期待できない。
〃	・専任の採用により要員を充足した。受注量は現状では手一杯だが、夏以降の案件が入るか不透明。	